<先輩の声>

☆緩和医療専門医を目指し、それまでのスキルアップとして当科での 2 年間の研修を終えた先生

Specialist を目標とする私が専門研修に入った今、高槻病院にお世話になり良かったなと感じています。
皆さんは自分が患者の診療を行うときに、何を根拠にしていますか。処方一つ、処置一つ、検査項目一つ、それらをなぜ、どのタイミングで、どの程度行い、どう評価するかといったことをどのように決定しているでしょうか。
高槻病院の総合内科では、所属する医師・NP 全てが、自分のやり方や上級医がこういうから、とか、この病院のやり方がこうだから、といった不確かなものを根拠にせず、論文や成書を元に世界的な evidence をきちんと集め、それを評価し、且つ自分達の症例に照らし合わせることで、全ての診療を取捨選択し進めています。それらは「患者にとって安全で確実、そして最良の outcome を出すためにどうすればよいか」という共通の志を全員で共有し患者の治療や decision-making を行おうとしているためです。
文章にすると至極当たり前のことに思えますが、全ての研修施設、全ての科、全ての医師がそのような共通認識の元、日々の診療を行えているかといえばそうでない場合も多くあると思います。
自分が患者のことを考え、調べ、この方法がよいのではないかと思っても、同じ志をもってその方針をディスカッションできる環境にいなければ、実際日々の診療を納得しながら行えない場面に遭遇することもあるのではないでしょうか。
この先生はこの処方が嫌いだから、とか、この先生が当番の時はこの処置はできないな、などという「環境因子」が自分の診療を決める一つになってくると、「果たしてそれは正しいのだろうか」「患者のために Best な選択肢なのだろうか」「自分はこう思うが、正しいかどうかディスカッションできる相手がいない」と悩むと思います。それらは自分の成長を妨げる大きな要因になるでしょうし、「どの施設でもどの環境でも通用する医師になるための研修」からは離れてしまうかもしれません。
高槻病院総合内科ではいつも開かれたクリアな診療、上下関係に関わらないフラットで活発なディスカッションが日々行われていました。印象的だったのは部長やアテンディングといった私から見ると百戦錬磨！といった上級医の先生達が、日常の症例から Clinical question を積極的に見つけ、共に調べ勉強する環境があったことです。卒後 10~20 年目の先生方が「知らなかったよ、勉強になったなあ！次の症例に活かしてみよう。」と話す姿は、何年たっても自分もそうありたいと思う存在でした。
「診療の全ては患者のために、全力を尽くせる医師になる」という当たり前で最も大事な目標を科内で全員が共有しているからこそ、平日夜間、土日に関わらず完全チーム制の診療体

制のシステムが成り立っており、365 日患者にとって最良の医療を提供しながらも休みをしっかりとる医師のライフワークバランスを保つことができていると思います。また上記の目標があるからこそ、毎朝行われる様々な内容のカンファレンスや学会発表、論文作成、臨床研究なども全員が自発的に取り組み、且つ結果を出すことができているのではないかと感じています。
上記のような環境で研修できたことは、自分の医師としての考え方の基礎を作るために大変重要な時間でした。Generalist でも Specialist でも、内科医でもそうでなくても、医師の基本は共通していると思います。高槻病院総合内科で、日々の診療全てを「自分で調べ、考え、判断し、周囲の医師とディスカッションし、決定し、診療をすすめる」という過程を繰り返し行うことで、臨床研修の目標である「どこに行っても自信を持って最良の医療を提供できる柔軟な医師」に近づくことができると確信しています。

☆卒後 3・4 年目の 2 年間の後期研修を終え、現在は他院の集中治療部で勤務する先生

2 年間で感じた、高槻病院総合内科で内科研修を行うことのメリットを 3 つ紹介したいと思います。

① 型が身につく内科研修
　総合内科の指導医陣は、どんなプロブレムに対しても、型を使ってアプローチすることを重視しています。思いついた診断に飛びつくのではなく、常に鑑別診断を挙げて決まったアプローチ（型）をすることで、間違った方向へ診療が向かう確率を減らすことができるようになります。

② ON/OFF の切り替え
　内科医は、患者さんに最大の責任感を持って責任を全うすることが求められます。しかし、それが 24 時間 365 日絶え間なく続くと、時に燃え尽きてしまうこともあるかもしれません。高槻病院総合内科では、土日どちらかはコールなしの 24 時間 OFF 体制に加え、平日夜は総合内科医が当直することで、日中はしっかり働き、夜間週末は、しっかり休むことができます。

③ 圧倒的な症例数
　高槻病院総合内科の入院患者は、年間 1000 人を超えます。たくさんの症例が経験できるのはもちろんですが、一人一人の患者さんのプロブレムをひとつひとつ丁寧にアセスメントすることで、内科力を飛躍的に高めることができます。また、一度にたくさんの患者さんを担当することで医療の質が低下することがないように、後期研修医一人当たりの担当患

者数に上限が設けられているところも、良いところだと思います。

以上、3 点が高槻病院総合内科で、特に良かったと感じたところです。

雰囲気の良さや、指導医のユーモアセンスなど、まだまだ素晴らしいところはたくさんありますが、挙げだすときりがないのでこのあたりにとどめておきます。

☆卒後 3・4 年目の 2 年間の研修し、現在は他院で血液内科専門医として勤務する先生

・内科医としての土台が身につく
高槻病院は 477 床を有する総合病院で年間 7000 台以上の救急車を受け入れています。その中で緊急の内科系疾患での入院症例の多くを総合内科で担当しており、重症度も軽症から ICU 症例、稀な症例まで幅広く対応しています。それ以外にも多数の合併症を抱えた外科症例を併診し、周術期管理を行うこともあります。また、超高齢者の入院症例も多く、急性期を脱した方には退院後にも適切な医療が継続できるよう、Transition of care を意識して診療を行っています。後期研修医一人あたり平均で 250 症例を主治医として診ていて，症例数もかなり多く経験できました。外来では後期研修 1 年目から初診外来を担当しました。病棟だけでなく外来もすることで様々な症例を経験でき，一つ一つの症例には必ず指導医のフィードバックがあるので、分からない所は分からないままになることはなく、常に新しい知識が入ってきてとても勉強になりました。このように多様な症例を経験することで急性期の全身管理から慢性期の対応まで身につけることが出来、専門科に進む前の内科の土台作りとして、とても充実した研修が受けられたと思います。

・学術活動やカンファレンスも充実している
高槻病院総合内科では国内や国外を問わず積極的に学会発表をしています。私も 2019 年度にオーストラリアでのポスター発表を経験させて頂きました。抄録やスライドの修正から英語での質疑応答のシミュレーションまでサポート体制が非常に充実しており、初めての海外学会でも不安なく発表に臨むことができました。他にも医学雑誌への投稿など、たくさんの経験を積むことが出来ました。
また、毎朝 8 時 10 分からは日替わりで MKSAP 勉強会や EBM、症例検討などを行っており、分かりやすいスライドの作り方や上手なカンファレンスの司会や進行の方法なども身につけることが出来ました。その他、医学的なことに留まらず、医師としてのキャリアの構築の方法や他科と上手く交渉する方法など医師としての素養も経験豊富な指導医の元で身につけることが出来たと思います。

・ワークライフバランスが保たれていて、オンオフがはっきりしている
高槻病院総合内科では仕事中は全力で仕事に取り組み、オフはしっかり休むということが徹底されていました。例えば、当直明けは必ず 12 時には帰ることが出来、週に 1 回は必ず 24 時間以上の連続した休みがあります。また、夏休みも最大で連続して 9 日取ることも可能です。仕事だけでなくオフの時間を楽しむことも出来ました。

以上のように高槻病院総合内科での 2 年間はとても楽しく働くことが出来、内科医として大きく成長することが出来たと思います。これから専門研修が始まりますが、総合内科マインドをもった専門医になれるよう頑張っていきたいと思います。

☆海外留学を目指して 1 年間の研修を終えた先生

医学生時代から米国での臨床留学を志していましたが、いざ医師になるとやはり日常診療忙殺され、留学の十分な準備を行うことができていませんでした。
特に日本人医師の多くが同じ悩みを抱えていると思いますが英語のコミュニケーション能力に大きな不安を抱えていました。このままではいけない、と思い医師としての研鑽を積みながら、英語を中心とした留学の準備ができる環境を探していたところ、高槻病院総合内科が私のニーズを満たしてくれる、と確信しました。部長である筒泉先生はご自身もハワイ大学内科レジデントプログラムに所属していた経歴があり、かつ臨床留学を目指す医師をこれまでも何人もサポートされていました。

高槻病院では一年間毎日のように筒泉先生に英語で症例を発表し、ディスカッションする時間をいただきました。英語の症例発表を 1 対 1 で濃密に指導してもらえる環境は珍しく、本当に有難かったです。また臨床能力の鍛錬という意味では高槻病院総合内科は合併疾患の多い高齢者の増加している我が国を反映した患者が多くおられ非常に充実した環境であったと思います。種々の病態を併せ持つ患者の病棟、一般外来、及び救急外来勤務を通じて多くの経験を積み、教育熱心な指導医諸先生方からは非常に多くのことを学ばせていただきました。雰囲気もよく、後期研修医や初期研修医も自分の意見を言える環境でありお互い学び合う環境に強く共感しました。留学の準備となっただけでなく、1 人の医師として成長をさせてくれる環境であったと強く思います。

海外の臨床留学の準備、という比較的稀な理由で私は総合内科で勤務させていただきましたが私の同僚や後輩医師もそれぞれの夢を持って総合内科でのトレーニングをされています。総合内科医として研鑽を積む先生もおられますし、専門内科医になる前の短期トレーニングをされる先生もおられました。医学知識を教えてもらうというだけなら多くの施設で

もできるかと思いますが、それぞれの医師に対してビジョン及び短期長期ゴールを確認され、それに合わせたトレーニングを考えてくれるこのプログラムはとても先進的であったように思います。

一度しかない医師人生です。後悔のないよう自分の夢をしっかりと持って頑張りたいと思っていましたが高槻病院総合内科はそれを暖かくサポートしてくれる環境でした。